

3 あり方懇話会における取組み

3 あり方懇話会における取組み

3.1 目的と位置づけ

あり方懇話会の目的は、県内水道事業者が抱える人口減少等に伴う経営状況の変化、施設の計画的更新・耐震化への対応、専門人材の確保・育成等の対応方策、あり方などについて、広域化の観点において、広く有識者からの意見聴取を行うこととする。

あり方懇話会では、広域連携検討会における議論を基に、有識者等の俯瞰的・客観的視点でさらに議論を重ねることとし、あり方懇話会にて得られた意見を参考に、県全体の水道事業の目指すべき姿を精緻化する。

3.2 開催概要

あり方懇話会の開催内容及び構成員を表 3.1 及び表 3.2 に示す。

表 3.1 あり方懇話会開催内容（令和3年度～）

回数	開催日	内容
第1回	令和3年 10月5日	・これまでの検討経過について ・プラン策定方針について
第2回	令和3年 12月16日	・プラン骨子・目標指標等について ・施設統廃合の検討について ・第3回懇話会における事業者との意見交換について
第3回	令和4年 2月7日	・水道事業者との意見交換 (仙台市、気仙沼市、涌谷町（選定事業者）)
第4回	令和4年 3月15日	・プラン素案について ・施設統廃合の検討について
第5回 (今年度開催)	令和4年 10月20日	・開催趣旨及びこれまでの振り返り ・プラン中間案について ・今後のスケジュールについて

表 3.2 あり方懇話会構成員

分野	氏名（敬称略）	所属・役職（令和4年10月20日時点）
学識経験者	佐野 大輔 (座長)	東北大学大学院 工学研究科 教授
	菊池 明敏	総務省経営・財務マネジメント強化事業アドバイザー (岩手中部水道企業団 元局長)
	大嶋 雄生	一般社団法人 行政経営支援機構 理事 (公認会計士・税理士・英国勅許公共財務会計士)
水道事業者	大沼 伸	宮城県企業局水道経営課 課長
	木村 剛	石巻地方広域水道企業団 技術次長
	東根 一	七ヶ宿町農林建設課 課長

3.3 開催結果

今年度実施された第5回あり方懇話会の主な意見概要等を以下に示す(第1回～第4回あり方懇話会における主な意見の概要等は、令和3年度業務報告書参照)。

【第5回あり方懇話会 令和4年10月20日】

(議題)

- ・ 開催趣旨及びこれまでの振り返り
- ・ プラン中間案について
- ・ 今後のスケジュールについて

(主な意見)

No.	水道事業者の意見概要	事務局回答等
■ 水道広域化推進プラン中間案について		
1	圏域ごとに取り組みの程度に濃淡をつけて、広域化を進められる地域だけでも進めるという方法もある。	圏域を構成する事業者間でも広域化に対する考え方が様々であり、圏域単位で取り組みを行うことは難しいため、 <u>今年度に設置した機能別検討部会で、圏域の枠を超えて、同じ取り組みを希望する事業者同士の検討を進めていきたい。</u>

(そのほかのコメント)

- ・ 水道事業の財政状況が悪化した際に一般会計からの繰入を想定している事業者もいるかもしれないが、そのような状況では自治体の一般会計も厳しく、さらに水道事業によって一般会計の財政も圧迫し、どちらも立ち行かなくなる可能性があるということまで認識しなければいけない。
- ・ 客観的に見て、交付金は時限措置であるが、非常に有利な措置であり、最大限活用すればメリットが非常に大きい。これをチャンスと捉えるか、チャンスが転がっているにも関わらず、今問題が多いことを理由に、課題をさらに大きくして子ども・孫世代へ渡さざるを得なくなることを認識してなお何も動かないのか、その判断を事業者に迫らなくてはならない。
- ・ 経営状態が良い事業者はこれまでに努力してきており、その努力を行っていない事業者と急に広域化と言われても困惑するだろう。事業者間の経営状態のレベルをある程度一定にした上で、広域化を進めるべき。
- ・ アンケート結果では課題意識があると見受けられるが、これらの課題に対して、広域化による対策以外も含めて、事業者は何か対策を行っているのか。広域化を進めることに時間を要するにも関わらず、何も対策せず課題への対応がこれだけ遅れているとすると、別の対策を考える必要が出てくる可能性もある。住民視点では、何も対策をしていないことを不安に思うのではないか。プランで対応することは難しいかもしれないが、県としてこれらの課題にどう対応するか、対応の必要性についての議論も必要。